

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年）

## I. 中心市街地全体に係る評価

### 1. 平成27年度終了時点（平成28年3月31日時点）の中心市街地の概況

第2期基本計画においては、前計画で福島駅を中心に形成された南北軸の新たな賑わいを東西軸へと拡大させることにより商業活性化につなげ、「震災からの力強い復興とまちなか再生を継続的かつ確実なものとする」ことを目標としている。

本計画で掲げている58事業については、概ね順調に着手しているが、未着手の事業があるうえ、計画1年目であることから事業効果が明確に現れていない。

今後、目標指標達成のため、主要事業を核としながら中心市街地活性化のため、各事業を推進していく。

中心市街地の状況は、第1期基本計画にて施行した中心市街地の魅力向上に繋がる回遊拠点の整備により、南北軸における周辺道路では歩行者・自転車通行量が増加しており、周辺商店街からは、賑わいが増したという声が聞かれる。

第2期基本計画では新たな賑わいを創出するため、福島駅前通りリニューアル整備事業によりイメージアップを図り、福島駅から東側の繁華街へ伸びる福島駅前通りを新しい東西動線軸と位置づけ、前計画で創出できた南北動線軸と共に回遊性を向上させ、中心市街地の魅力を向上させるとともに、総合病院の移転新築計画が東西軸線上にて着手されたことによる集客の向上と、高度医療の拡充と近隣で計画された分譲住宅を含む複合施設整備等により、居住人口の増加が期待される。

市内全域の観光客数は震災前（平成22年）に661.7万人とピークを迎えたにもかかわらず、翌年の平成23年には東日本大震災の影響により547.4万人まで激減した。

その後、認定計画掲載事業となっているソフト事業と併せ、福島市復興計画に基づく除染作業や復興関連イベントを鋭意推進してきた。その結果、東日本大震災に起因して発生した原発事故からの風評被害は払拭までには至らないが、平成26年度における観光客数は635.3万人まで回復している。

また、特に子供を持つ家庭を中心に空間線量率が低い郊外又は市外・県外へ自主避難のため居住人口が減少してきたが、除染作業等により市内全体の空間線量率が低減したことから市内へ戻る家庭も増えており、今後、居住人口の回復と掲載事業による更なる居住人口増加が期待できる。

### 2. 平成27年度の実績等に対する中心市街地活性化協議会の意見

福島市と協議会を年3回開催し、分科会においては福島駅前通りリニューアル推進会議や県庁通りリニューアル検討会等を年23回開催して中心市街地の諸課題に取り組んでいる。

また、前計画の実情を踏まえ、第2期基本計画の目標指標の達成に必要な個別事業や活性化事業の進捗等を管理しながら官民が連携して取り組んでおり、中心市街地の事業者からは第1期基本計画以降、賑わいが少しずつ回復しているとの声も頂いており、本計画が概ね順調に推移していると評価している。

東日本大震災及び原発事故における風評被害等の影響がまだまだ残っており、目標指標の達成に至っていないことから、引き続き復興・再生を図り中心市街地再生を持続的かつ確実なものとするため、官民が連携し集中的・効果的な取り組みによる都市機能の強化と経済活動の向上を総合的かつ一体的に推進して参りたい。

## Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目 標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
賑わいの創出	歩行者・自転車通行量	34,918 人/日 (H26)	35,970 人/日 (H31)	34,523 人/日 (H27)	—	③
賑わいの創出	新規出店舗数	22 店舗 (H26)	25 店舗 (H31)	22 店舗 (H27)	—	③
快適居住の促進	居住人口	16,750 人 (H26)	16,820 人 (H31)	16,671 人 (H27)	—	③
快適居住の促進	文化・交流施設利用者	2,330,327 人 (H25)	2,524,700 人 (H31)	2,227,090 人 (H26)	—	③

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

### 2. 目標達成見通しの理由

#### （歩行者・自転車通行量）

歩行者・自転車通行量については、現況値に対して約1%減少しているが、ほぼ前年と同じ水準と考えられる。前計画からの事業効果で緩やかながら増加傾向にあり、今後、第2期基本計画の掲載事業が完成することにより、前計画の南北軸と本計画の東西軸が連携して街なかの回遊性を向上させ、歩行者・自転車通行量の増加が期待される。

#### （新規店舗数）

新規出店舗数については、空き店舗対策重点地区に対する支援事業の成果により新規出店舗数を維持している。今後、第2期基本計画の掲載事業である総合病院の移転新築、複合型分譲住宅、福島駅前通りのリニューアル等の整備が完了するに伴い、環境が整い集客性も向上し、それに併せて賑わいの創出が図られ、商業の活性化に繋がるものと考えており、新たな新規出店舗が期待される。

#### （居住人口）

居住人口については、基準年値に対して減少している。東日本大震災による原発事故等の影響により、特に子供を持つ家庭を中心に自主避難のため、空間線量率が低い郊外又は市外・県外へ流出しているのが要因と考えられる。

今後は、除染作業等により市内全体の空間線量率が低減したことから市内へ戻る家庭も増えており、居住人口の回復と掲載事業による更なる居住人口増加が期待できる。

#### （文化・交流施設利用者数）

文化・交流施設利用者数については、基準年値に対して約4%減少している。

要因は交流施設を使用した震災復興関連の大規模イベントが年々減少しているためであり、今後は、第2期基本計画に掲載しているソフト事業を連携強化し、福島市（特に中心市街地）の魅力を発信するイベントを増やし活性化に繋げていく。

### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

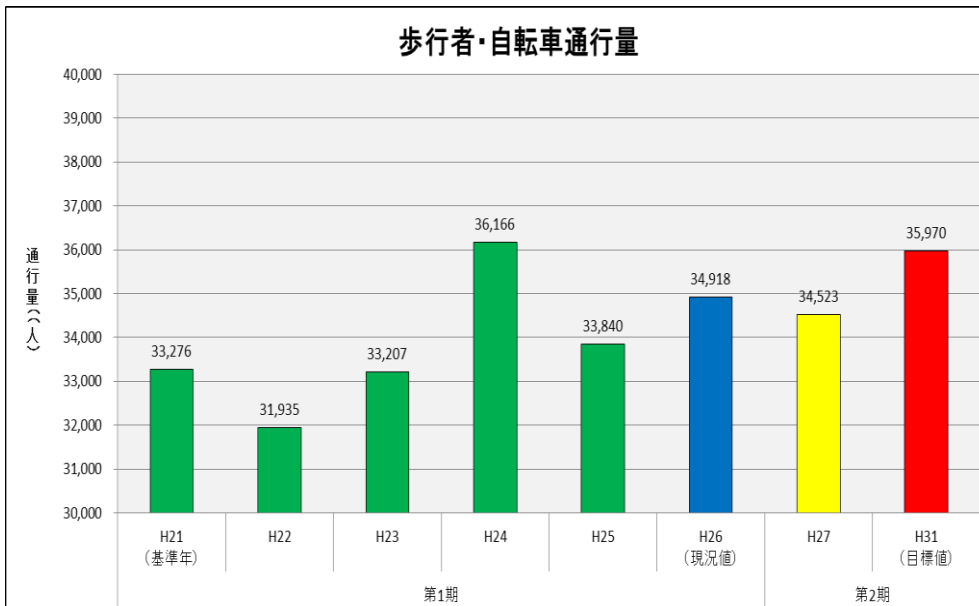
前回フォローアップは実施していない。

### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

## 目標 1【賑わいの創出】

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方（第 2 期基本計画 P84～P90）

### ●調査結果の推移



年	通行量(人)
H26	34,918 (現況値)
H27	34,523
H28	—
H29	—
H30	—
H31	—
H31	35,970 (目標値)

※調査方法：午前 8 時から午後 7 時までの連続 11 時間の歩行者・自転車通行量（毎年 1 回、7 月に実施）

※調査主体：福島市

※調査対象：歩行者及び自転車通行者

※通行量値：平日・休日の中心市街地 9 地点を加重平均した値【加重平均：[休日(2 日)+平日(5 日)]/7 日】

### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ① 上町地区暮らし・にぎわい再生事業・上町地区都市機能立地支援事業

（実施主体：（一財）大原総合病院）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	中心市街地にある総合病院を、地域医療を支えるため先進医療導入した拠点病院として整備する。 （地上 10 階建、病床数 350 床、立体駐車場、供給処理施設、外構整備等）
事業効果又は進捗状況	医療・福祉施設の整備を行うことで東西軸の回遊環境が向上し、自転車通行量が増加、それに伴う賑わいが創出される。 現在、病院棟本体工事に着手し進捗率は 23%である。

#### ② 早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業

（実施主体：（株）グリーンアカデミー）

事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	医療施設を整備するとともに、併設して有料老人ホーム、分譲住宅、立体駐車場、店舗等の複合施設を整備する。 （地上 14 階建て 分譲住宅 44 戸、有料老人ホーム 46 戸）
事業効果又は進捗状況	医療・福祉施設・分譲住宅の整備を行うことで中心市街地の回遊環境が向上し、自転車通行量が増加、それに伴う賑わいが創出される。現在、病院棟・マンション棟・立体駐車場棟工事に着手し進捗率は 27%である。

#### ③ 腰浜町町庭坂線道路事業

(実施主体：福島市)

事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	本市の内環状道路に位置付けられる都市計画道路の大平寺岡部線に接続し、福島駅を中心に形成された東西軸の交流機能の強化を図る。 (延長 L=184m 幅員 W=20~25m)
事業効果又は進捗状況	自転車の安全な走行環境を構築するため、歩道と並列する自転車道を整備することにより、回遊環境の向上が期待される。 また、東西軸における歩行者・自転車の通行量が増加、それに伴う賑わいの創出が見込まれる。 現在、道路改良工に着手し進捗率は 97%である。

#### ④杉妻町早稲町線道路事業

(実施主体：福島市)

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	福島駅南地区で未整備区間となっている本路線を整備することにより街なか回遊軸を形成し、交通機能の強化を図る。(L=240m, W=15m)
事業効果又は進捗状況	医療機関や公共施設等への円滑な交通流動を確保するため本路線に歩道を整備することにより、回遊環境の向上が期待される。 また、自転車・歩行者の安全な交通環境が確保されることにより通行量の増加、それに伴う賑わいの創出が見込まれる。 現在、測量設計に着手し進捗率は 10%である。

#### ●目標達成の見通し及び今後の対策

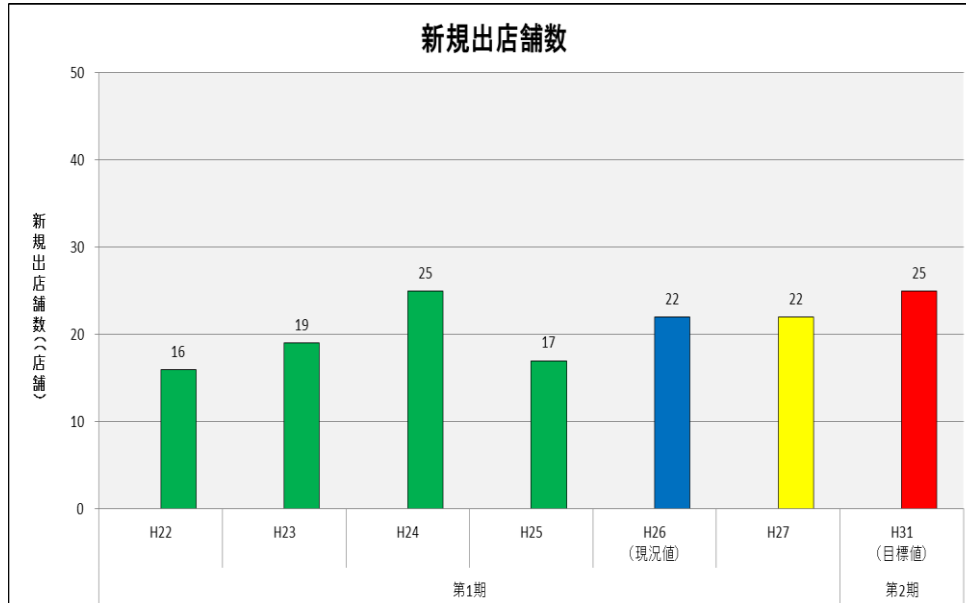
目標 1 の「賑わいの創出」を達成するための指標である「歩行者・自転車通行量」についての見通しと今後の対策としては、前計画の南北動線軸と本計画による東西動線軸を核に、腰浜町町庭坂線、杉妻町早稲町線の道路事業により街なか回遊軸を形成し、回遊性の向上による歩行者・自転車通行量の増加を図る。

また、総合病院の移転新築等により商業環境の改善と集客性の向上を図ることにより歩行者・自転車通行量の増加、それに伴う賑わいの創出が併せて期待できる。

今後は、事業年度ごとフォローアップを実施し、中心市街地の現状、各事業の効果を確認するとともに事業の改善も併せ、中心市街地活性化協議会と連携して活性化に取り組んで参りたい。

「新規出店舗数」※目標設定の考え方（第2期基本計画 P91～P93）

●調査結果の推移



年	新規出店舗(店舗)
H26	22 (現況値)
H27	22
H28	—
H29	—
H30	—
H31	—
H31	25 (目標値)

※平成31年度の目標値は、基準値（過去5年間の平均値：20店舗）から5店舗増の25店舗とする。  
（目標年次までの5年間に毎年1店舗の出店を誘発する）

※調査主体：福島市

※調査対象：中心市街地における中心部（6地区：本町、大町、置賜町、新町、万世町、栄町）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 福島駅前通りリニューアル整備事業

（事業主体：駅前通り商店街、福島市）

事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	老朽化したアーケードの撤去、福島駅前通りに面する店舗のファサード整備、街路灯設置を行う。 （整備区間：L=265m）
事業効果又は進捗状況	歩行者優先の「笑顔と賑わい」を育むシンボリストリートを目指し、安全・快適でゆとりのある人に優しい歩行環境の形成と、沿道店舗等と道路空間が一体となることにより新規店舗数が増加、それに伴う賑わいの創出が見込まれる。 現在、アーケード撤去及び街路灯設置に係る設計を行い、進捗率は20%である。

② 栄町地区商業施設整備事業

（事業主体：(株) 中合）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	中心市街地の中核的な店舗として、福島駅前地区の賑わいの創出と安全安心なまちづくりのための調査及び施設整備を行う。
事業効果又は進捗状況	集客力の強化を通じた活性化を図るため、消費者ニーズに対応し、かつ周辺商店街等の地域経済が便益を享受できる商業施設の整備を行う。その結果、中心市街地における魅力の向上が期待され、新規店舗数が増加、それに伴う賑わいの創出が見込まれる。 現在、ニーズ調査に着手し、進捗率は10%である。

●目標達成の見通し及び今後の対策

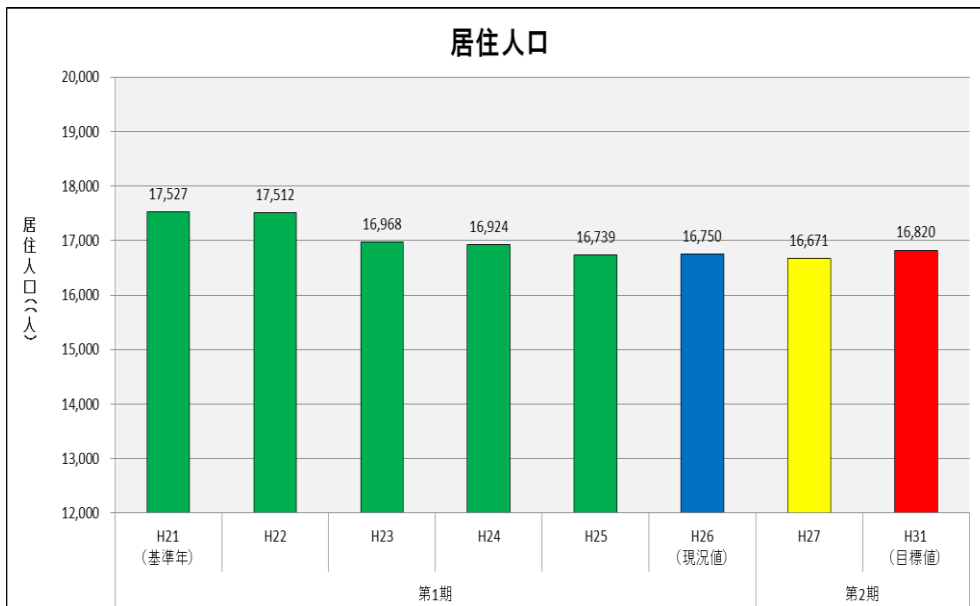
目標1の「賑わいの創出」を達成するための指標である「新規出店舗数」についての見通しと今後の対策としては、福島駅前通りのリニューアル、空き店舗対策の充実、商業施設整備事業等により商業環境の改善と集客性の向上を図ることにより、中心市街地における新期出店舗数の増加に伴う賑わいの創出が期待できる。

今後は事業年度ごとフォローアップを実施し、中心市街地の現状、各事業の効果を確認するとともに事業の改善も併せ、中心市街地活性化協議会と連携して活性化に取り組んで参りたい。

目標2【快適居住の促進】

「居住人口」※目標設定の考え方（第2期基本計画 P94～P96）

●調査結果の推移



年	居住人口(人)
H26	16,750 (現況値)
H27	16,671
H28	—
H29	—
H30	—
H31	—
H31	16,820 (目標値)

※平成31年度の目標値は、平成26年度の16,750人から70人増の16,820人とする。

※調査主体：福島市

※調査対象：第2期福島市中心市街地活性化基本計画エリア（297ha）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業

（実施主体：(株) グリーンアカデミー）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	医療施設を整備するとともに、併設して有料老人ホーム、分譲住宅、立体駐車場、店舗等の複合施設を整備する。 (地上14階建て 分譲住宅44戸、有料老人ホーム46戸)
事業効果又は進捗状況	医療・福祉施設・分譲住宅の整備を行うことで生活環境が向上し、快適居住の促進、賑わいの創出が期待される。 現在、病院棟・マンション棟・立体駐車場棟工事に着手し進捗率は27%である。

② 上町地区暮らし・にぎわい再生事業・上町地区都市機能立地支援事業  
 (実施主体：(一財) 大原綜合病院)

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	中心市街地にある総合病院を、地域医療を支えるため先進医療導入した拠点病院として整備する。 (地上 10 階建、病床数 350 床、立体駐車場、供給処理施設、外構整備等)
事業効果又は進捗状況	医療・福祉施設の整備を行うことで生活環境が向上し、快適居住の促進、賑わいの創出が期待される。 現在、病院棟本体工事に着手し進捗率は 23%である。

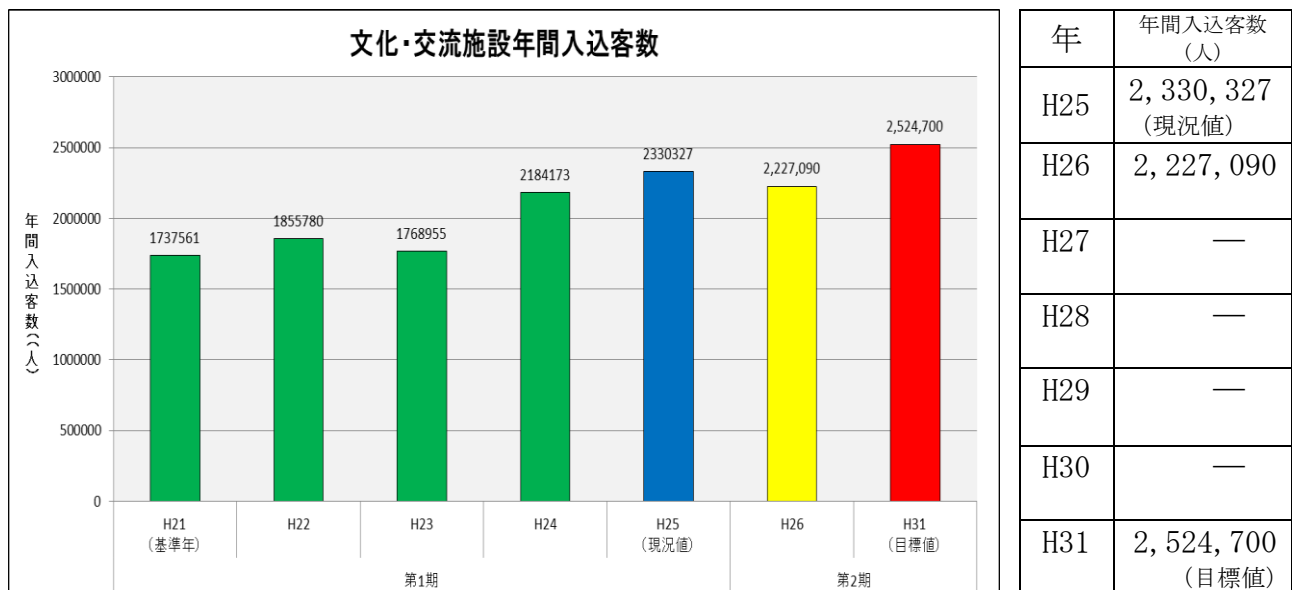
●目標達成の見通し及び今後の対策

目標 2 の「快適居住の促進」を達成するための指標である「居住人口」についての見通しと今後の対策としては、中心市街地における居住人口を増加させるため、暮らし・にぎわい再生事業による総合病院の移転新築、複合型分譲住宅の整備等による拠点施設整備により良好な居住環境を提供する必要がある。これらは前計画からの継続事業でもあることから事業の確実な完了を遂行する。

今後は事業年度ごとフォローアップを実施し、中心市街地の現状、各事業の効果を確認するとともに事業の改善も併せ、中心市街地活性化協議会と連携して活性化に取り組んで参りたい。

「文化・交流施設年間入込客数」※目標設定の考え方 (第 2 期基本計画 P97~P100)

●調査結果の推移



※平成 31 年度の目標値は、平成 21 年度から平成 25 年度までの中心市街地における文化・交流施設年間入込客数に回帰式を当てはめ、将来の年間入込客数を推計

※調査主体：福島市

※調査対象：第 2 期福島市中心市街地活性化基本計画エリア (297ha)

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業

(実施主体：(株) グリーンアカデミー)

事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	医療施設を整備するとともに、併設して有料老人ホーム、分譲住宅、立体駐車場、店舗等の複合施設を整備する。 (地上 1 4 階建て 分譲住宅 44 戸、有料老人ホーム 46 戸)
事業効果又は進捗状況	医療・福祉施設・分譲住宅の整備を行うことで中心市街地の回遊環境が向上し、文化・交流施設利用者数の増加、賑わいが創出される。 現在、病院棟・マンション棟・立体駐車場棟工事に着手し進捗率は 27% である。

② 腰浜町町庭坂線道路事業

(実施主体：福島市)

事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	本市の内環状道路に位置付けられる都市計画道路の大平寺岡部線に接続し、福島駅を中心に形成された東西軸の交流機能の強化を図る。 (延長 L=184m 幅員 W=20~25m)
事業効果又は進捗状況	自転車の安全な走行環境を構築するため、歩道と並列する自転車道を整備する。 その結果、回遊環境の向上に伴う文化・交流施設利用者数の増加、賑わいの創出が見込まれる。 現在、道路改良工に着手し進捗率は 97% である。

③ 杉妻町早稲町線道路事業

(実施主体：福島市)

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	福島駅南地区で未整備区間となっている本路線を整備することにより街なか回遊軸を形成し、交通機能の強化を図る。(L=240m, W=15m)
事業効果又は進捗状況	医療機関や公共施設等への円滑な交通流動を確保するため本路線に歩道を整備することにより、回遊環境の向上が期待される。 また、自転車・歩行者の安全な交通環境の確保により通行量が増加、賑わいの創出が見込まれる。 現在、測量設計に着手し進捗率は 10% である。

●目標達成の見通し及び今後の対策

目標 2 の「快適居住の促進」を達成するための指標である「文化・交流施設利用者数」についての見通しと今後の対策としては、文化・交流施設利用者数を増加させるため、中心市街地に位置する魅力的な公共施設を回遊ネットワークにより繋げ、各施設で行うイベントを単発で行うのではなく、連携し一体的に行うことにより、より大きな集客性を確保できるよう官民あげて取り組んでいき、施設利用者の増加を図っていく。

今後は事業年度ごとフォローアップを実施し、中心市街地の現状、各事業の効果を確認するとともに事業の改善も併せ、中心市街地活性化協議会と連携して活性化に取り組んで参りたい。